



標語

おなかより
心を満たす

愛の食
袴野小5年 浅井万奈

詩

いただきます
自然の命に
感謝して
益城中央小5年 水口詩菜

おいしい給食

飯野小3年 戸田雄介
給食の時間になったら
おなか「ぐー」。
早く食べたいな
たくさん食べるから
かぜもひかない。
ぼくは、おいしい給食が
大好きです。

詩

給食の
歴史をたどれば
残せない
益城中2年 江口毅人

給食

木山中2年 山内冴子
私たちは給食をあたり前
のように食べている。
しかし、世界中に目をむ
けると、ご飯すら食べられ
ない国がある。
そうした中で、給食が食
べられることに感謝をしな
ければならない。
給食を作ってくださる人
農家の人々、そして動物の
命。
私たちが肉などを食べら
れるのは、動物たちがいる
からである。
こうした環境だからこそ、
給食が食べられるのだ。
給食を残してしまうのは、
いけないことだと思う。
好き嫌いせず、だされた
物は残さず食べる。
これが一番大切なことだ。

作文

おいしい給食ありがとう

広安西小6年 福沢恵

1年生の時、初めて給食を見てビツクリしました。とても多く感じていた給食も6年生になるとちようどいいか、少なく感じるようになりました。
でも私は不思議に思いました。1年生から6年生まで6年間食べ続けてきたのに、ぜんぜんあきません。きつといつかは、あきる時がくるだろうと思っていたけど、全く感じません。
「給食はすごいなあ」と思います。
1年生の時、給食センターを見学しました。大きな鍋の中に野菜やお肉を入れて、大きなしゃもじで鍋の中の物をまぜたりしている姿を見て、「給食センターの人たちは、すごいなあ」という気持ちと「こんなな一生けん命に作ってくれているんだ」という気持ちになったことをおぼえています。6年生になって、その時のことを思い出すと、「ありがとう」という気持ちになります。
5年生の時に3色の栄養素を学んだ時も「ありがとう」という気持ちになりました。
「給食もちゃんと栄養を考えてあるんだ」と気づいた時「ありがとう」という思いになりました。
6年生で、1食分の食事を作るといいう時、バランスのよい食事を作ることは、ものすごく大変なことに気づきました。そう思うと「ありがとう」と思います。毎月こんだてを考えて、学校の子どものために作ってくださってありがとうございます。
中学校に行ってもこの気持ちを忘れずに、味わって食べます。おいしい給食をありがとう。



1月26日、住永町長が給食巡回会食として、益城中央小を視察し、6年1組の子どもたちと一緒に給食を食べました。